

排気筒の耐震性を高める工事を行っています

東通原子力発電所では、発電所各建屋内の換気の排気を行うため、高さ111mの鋼製の排気筒を設置しており、平成24年7月には、自主的な耐震裕度向上工事として、排気筒の支持鉄塔を新設するとともに、排気筒と支持鉄塔を接続する制震装置「弾塑性ダンパー(鋼製)※1」を設置しました。

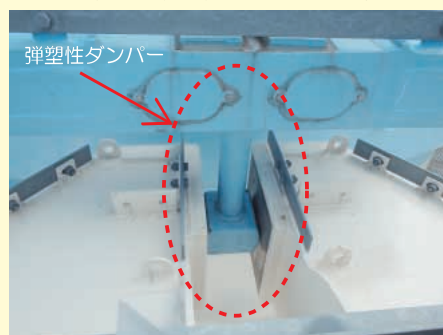
今般、排気筒のさらなる安全レベルの向上を目的として、平成26年10月より、既存の弾塑性ダンパーを「オイルダンパー※2」に取り替える工事を実施しています。



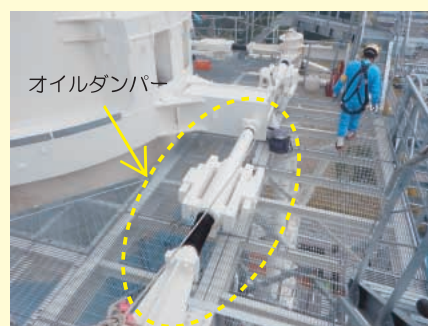
【工事状況／7月2日撮影】

※1 地震の揺れを、鋼製の棒の変形により吸収する装置
※2 地震の揺れを、油の流体抵抗により吸収する装置

【工事前／弾塑性ダンパー(鋼製)】



【工事後／オイルダンパー[最上部のみ]】



原子炉を冷却する水を確保する工事を行っています

重大事故等の収束に必要な冷却水を確実に確保するため、復水貯蔵槽等の既存の水源に加え、新たに淡水貯水槽を設置する工事を平成26年6月より実施しています。

淡水貯水槽は、幅55m、長さ37.5m、深さ13mの水槽で、大きな地震でも十分な耐震性を有し、機能を損なうことがないよう、堅固な岩盤の上に地下式鉄筋コンクリート造で建設します。

貯水容量は約10,000m³で、重大事故が発生し、復水貯蔵槽等の既存の水源が枯渇した場合でも、この貯水槽から大容量送水ポンプ車を用いて、冷却水を原子炉や使用済燃料プール等に注水することができます。



【淡水貯水槽鉄筋組立て状況／5月29日撮影】



【淡水貯水槽コンクリート打設状況／6月18日撮影】



【淡水貯水槽から原子炉建屋内への水の流れ(イメージ図)】

人事異動により新しい仲間が加わりました

この度の定期人事異動に伴い、新たに30名が発電所の一員として加わりました。

今後とも、早期再稼働に向け、地域の皆さまから親しまれ、信頼される発電所を目指して、所員一丸となって取り組んでまいります。



国道338号沿道清掃を実施しました

東通原子力発電所と協力会社で組織する「東通原子力発電所安全衛生推進協議会」は、6月4日、発電所周辺の国道338号の沿道清掃(約4km)を実施しました。

当日は、発電所および協力会社の社員52名が参加し、可燃ごみや空き缶など、約140kgのごみを回収しました。

同協議会では、今後も沿道清掃を通じて、地域の環境美化活動に取り組んでまいります。

